

# 校名：信州大学教育学部附属特別支援学校

所在地：〒381-0016 長野市南堀109

電話番号：026-241-1177

記載日：平成28年 5月19日

記載者：吉澤 清

記載者役職：教頭

## 貴校の校風、おおまかな特色について：

### 学校教育目標

『自らの力をじゅうぶん発揮し、主体的に取り組む生活を  
今と将来にわたって実現する児童生徒の育成』

### 本校の特徴

信州大学教育学部附属特別支援学校は、知的障がいのある子どもたちを対象にした学校です。学校教育目標の実現を目指して、子ども一人一人の深い理解に基づき、生活単元学習・作業単元学習・個別の学習（PLUS）の時間を中核にした子ども主体の生活づくりを進めています。

○生活単元学習（小学部・中学部・高等部）…児童生徒の意欲や主体性を大切にし、自立的な生活に必要な事柄を、各教科等を合わせて実際の・総合的に学習します。

○作業単元学習（高等部）…生活単元学習の発想を生かし、生徒の生活上の願いに基づき、作業を中心とした実際の体験を通して学習します。

○個別の学習（PLUS）の時間…一人一人の興味・関心や得意なことを手がかりに、個に即した活動や内容で学習する時間です。

## 貴校の卒業生の活躍状況について：

①追跡調査はしていない。

②同窓会の会員の連絡先を把握している。同窓会事務局が情報を保管している。同窓会を退会した卒業生の動向は把握できない。

③年に一度行われる同窓会（夏）に会員が集い、情報交換をする。年数回行う同窓会行事の案内を卒業生に送付している。

## 貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

①追跡調査はしていない。

②ほとんど把握していない。異動後の3年間、公開研究発表会の案内を送付している。

③上記の通り

## 魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

### 1 PLUSの時間の学習（個別の学習）

一人一人の伸びている力がさらに伸びることを願って行う個別の学習。一人一人に応じた学習場面を設定し、本人・家庭・地域の支援者の教育的ニーズを取り入れながらその子に応じた題材を展開する。

① 小学部の題材例

「わくわくコリントゲームであそぼう」

「ぐらぐらゆらゆらであそぼう」

「げきあそびをたのしもう」

② 中学部の題材例

「トイレットペーパーホルダーカバーを作ろう」

「コマどりアニメに挑戦しよう」

「マイドラムでたたいて歌おう」

③ 高等部の題材例

「買い物をしよう」

「友達の写真をコラージュしよう」

「運転免許の勉強をしよう」

2 交流及び共同学習

① 附属小中学校との交流（小学部、中学部）

附属特別支援学校、附属小学校、附属中学校が同一キャンパス内にあるため、複数回の交流及び共同学習を行うことができる。同世代の交流を重視し、小学部と小学生（高学年クラス）、中学部と中学校（2または3年クラス）が互いの学校を行き来して年数回の交流を行っている。

・小学部と小学校5年生の交流（H27）

「附属小の友達と動物に会いに行こう」

「はなそらぼうけんひろばであそぼう」

「はなそらのもりであそぼう」 等 年6回の交流

・中学部と中学校3年生の交流（H27）

「自己紹介、ソーラン節の発表（中学部）、合唱の発表（中学校）」

「あさひの祭り（中学部）」での交流

「太鼓演奏」の交流 等 年7回の交流

② 市立小学校、私立こども園との交流（小学部）

小学部は、近隣の小学校、こども園（幼稚園）との交流を続けている。日常的に自然なかかわりを大切にしながら、互いの心のつながりを深めることを大切にしている。（年4・5回）

③ 特別養護老人ホームとの交流（高等部）

学校近くの特別養護老人ホームを訪問し、奉仕活動（窓ふき、草取り）や利用者さんとのふれあい（塗り絵、ダンス、歌）を通して、地域の方の様子を知り理解し合う機会を設けている。（年2回）

3 地域の方とともに学ぶ生活単元学習・作業単元学習

① 地域の方とともに活動する生活単元学習（中学部）

作品制作の活動や太鼓演奏発表などの学習に地域の皆様を招いている。花壇の木枠と一緒に作ったり、完成発表会に招待したりしながら地域の皆様とのつながりを深めている。また、地域の公園に花壇を設置し、花の世話をしながら交流をしている。

・単元名「私たちの『朝陽野ライブ』を届けよう」（H27）

・単元名「みんなが集まるはなまるパークを作ろう」（H26）

② 地域のプロサッカーチームを目標に活動する作業単元学習（高等部）

地元のJ3サッカーチーム「AC長野パルセイロ」の皆さんと一緒にサッカーを楽しみたい、ホームグラウンドで試合をしたいという願いを実現しようと学習を重ねた。お客さんに喜んでもらえる製品を目標数製作し、販売した収益を使って、「パルセイロ」の選手を交えて試合を

したり、南長野運動公園総合球技場でサッカー大会をしたりすることができた。

- ・ 単元名「校庭をサッカー場にして、みんなでサッカー大会を楽しもう」(H27)
- ・ 単元名「パルセイロのホームスタジアムでサッカーを楽しもう」(H27)

#### 4 大学とPTAが連携して行う放課後活動支援「げんきクラブ」

教育学部学生とPTAが協力して企画運営する放課後活動支援で、5月から12月に実施する。水曜日の15:00~16:00の時間を利用して、年15回程度の活動を行っている。在校児童生徒から参加希望を募り、「うんどう」「おんがくあそび」「ダンス」「ゲーム」などのグループに分かれて、小学部生から高等部生が縦割りで活動する。

教育学部の学生はそれぞれのグループの活動を計画、準備する。当日は、学生が中心になって活動を進める。保護者は、学生の活動を手伝ったり、安全に活動できるように見守ったりする。

#### 5 大学・地域企業と連携して行う放課後活動・土曜活動

##### ①アフター3 (H26・27に実施した放課後活動、土曜活動)

昨年度まで文部科学省の委託事業・キャリア教育就労支援等の充実事業で、高等部生の今の生活の充実を図るとともに、将来の社会生活につながる学習を積み重ねるために実施していた放課後活動。2年次は活動の充実を図るため、土曜日の活動を加えた。

- ・ 活動時間 毎週水曜日 15:00~16:30  
隔週土曜日 9:00~13:00
- ・ 活動場所 生活訓練棟 学校農園(畑、水田)
- ・ 内 容 衛生管理、スケジュール管理、選挙について、お菓子・こんにゃく・豆腐作り  
野菜作り、米作り、農産物販売、収穫物を使った調理活動、収穫祭 等

##### ②土曜クラブ (H28に実施する土曜活動)

近隣の企業が農林水産省の福祉農園地域支援事業を受託し、教育学部と共同で実施するプログラムに高等部生(希望者)が参加する。土曜日を中心に年間17回の活動を予定している。

- ・ 活動時間 土曜日 9:00~13:00
- ・ 活動場所 福祉農園(畑、水田) ※地元企業(農産物生産・加工・販売)所有  
生活訓練棟(信州大学教育学部附属特別支援学校)
- ・ 内 容 野菜(ジャガイモ・ネギ・大豆・落花生・トマト・カボチャ等)や稲の栽培、農産物直売会、収穫祭、餅つき等

## 地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

附属校だけでなく、近隣の公立小学校、私立こども園、特別養護老人ホーム、障害者福祉事業所、地元企業との継続した交流がなされている。また、近隣住民の皆様とともに活動する学習を積み重ねていることや運動会などの地域の自治会の行事に校庭や生活訓練棟等の学校施設が活用されていることから、地域にとって欠かせない存在になっていると考える。

知的障がいのある児童生徒の進学先として、地域の公立特別支援学校や公立小中学校の特別支援学級と連携をとりながら就学相談をていねいに進めている。本校の魅力は、少人数であること、一人一人に寄り添ったきめ細かな教育課程を組んでいること、研究校としての使命を果たしていること、安全で静かな環境にあること、鉄道による自力通学が可能なことなどがあげられ、長野市を中心に隣接する市町村から児童生徒が登校している。

## 附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

### 1 地域からのニーズに応えられる学校に

少子化に加え、教育に対するニーズが多様化しているため、公立特別支援学校、通常の小中学校の教育課程とは異なる本校の良さを求めて、本校の教育相談を受ける家庭がここ数年増加している。入学定員8名（小中高合計）に対して昨年だけで50件近い相談があったことから、本校の存在が地域の方に注目されていることが分かる。保護者の皆様のニーズに応えながら、児童生徒一人一人の成長を願い、将来の自立に向けて主体的に取り組む生活を積み重ねていく学校として存在意義が大きいと考える。

### 2 大学教育学部との強い結び付き（学生の演習、臨床の場、教育実習）

放課後活動支援「げんきクラブ」は、教育学部学生の運営によるもので、臨床演習を兼ねている。学校行事（全校運動会、小学部宿泊学習、中学部海の学習、小中高のスキー教室等）のボランティア支援や福祉農園支援事業「土曜クラブ」の活動も教育学部学生に寄るところが大きい。教育実習を行う4年次だけでなく、大学在学中に学部生が特別支援学校の児童生徒と共に過ごし、学び、支援する機会がこれだけ多くできるのは、附属学校ならではの点である。学生が教師として教育現場に出るまでに十分な経験を積むことができる県内唯一の学校である。

### 3 研究校、教職大学院学校臨床演習の場、県内特別支援学校のリーダーを育てる場

現在本校では、地域の小中学校の特別支援学級担任が日々の支援、学習指導について悩んでいる点や個別指導や生活単元学習を実践してみたいがなかなかできない点等に応えられるように「学びのワークショップ」を年数回開催している。近隣の小中学校から参加する先生方が少しずつ増えてきている。

また、本年度から学校拠点方式の教職大学院が始まった。本校に在籍する教職員が大学院生として教育現場で実習及びチーム演習を行っている。現職教育の学びの場として、大きな役割を果たすと共に、県内特別支援学校で将来リーダーとして活躍する人材を育成する場にもなっている。